



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (324)

おちばの3月26日。月次祭の後、真柱様は4月1日から毎月1日にお願いづとめをさせて頂きたいと述べられました。拍子木と数取りでつとめると。続いて内統領先生は直属教会、部内教会でもつとめてくださればありがたいと述べられました。新型コロナウイルスの1日も早い収束を願って大教会でも4月1日のたすけ会議後お願いづとめをさせて頂きました。世界の大きな事情に際して皆さま共にお願いをさせて頂きたく思います。

おつとめは元々よろづたすけのおつとめであり、まずお礼を申し上げ、あらゆる願いを込めてつとめるものです。誰しもコロナ禍の収束を願っておられることと思います。この度は全教が一丸となつての祈願。心強く感じます。

さて3月26日には会長夫人藤田美重子が札幌分教会長のご任命を頂きました。できるだけ早

お知らせ

全教一斉ひのきしんデー 4月29日(祝)
・インターネットで「教区情報ネット」と検索
住所より支部の会場が閲覧出来ます
五月月次祭 5月15日(土) 9時30分開扉献饌
祭典の様様をライブ配信します

く次代の後継者を頂けるようご守護を願っています。私は6月26日からは前会長になるので、妻の手助けをすることで少しは恩返しをしたいと思えます。

4月18日は目度く223回目の誕生を祝い教祖誕生祭がとめられます。例年なら大勢のおちば帰り、そして19日の婦人会総会で沸き立つおちばですが、今年は参拝も限定的であり、総会参加も人数制限があります。皆さまと親里おちばにいつものように帰参できる日が早く来ますよう祈らずにはいられません。

大変な中ですが陽気ぐらしを忘れず、優しい心で暮らせるよう心がけたいと思います。

私はこの頃、過去の大変な時のことや、たすけられたことを思い返します。そうすると今がいかにありがたく守られていることかと感謝が湧いてきて幸せな気分になります。

34年前、私は6月に会長のお許しを頂いたのですが、その2

ヶ月前の4月11日のことです。夏タイヤで走っている国道に雪が積もり私の運転する車がスリップして対向車線に出てしまったのです。身の毛もよだつ恐怖の瞬間。ぶつかると思ったとき、走る方向が変わり、路外に飛び出していたのですが不思議に無傷。正面衝突を回避して大木のそばに停止したのでした。となりには4歳の長男、大和を乗せていました。父子もろともまさに危機一髪のところを救っていただきました。その時思ったのです。命あることは何よりありがたいこと!

その頃、自分が会長になって父のようにつとめられるだろうかと胸中、先を案じる心が渦巻いていたのです。その不安がすっかり抜けました。先案じはやめよう!素直に神様のことをさせて頂こう!と腹に収まったのです。

「命があるから心配もできる。死んでしまえば心配は無くなるが楽しみなことなくなってしまう。おつとめ、おたすけ、何

でもあたわるご用は素直に受けさせてもらおう！頭で考えてばかりいることはやめよう！」「まいりました！神様にはかたがたいません。生きてる限り私をご用に使ってください！」と大教会の神前にぬかづいたのです。それはまるで神様に食べられたような気がした私の元一です。それから34年が経過し現在を迎えています。

ご守護のおかげ、親のおかげ、皆さまのおかげ。守られたおかげで今がある。危なかった。いくつかの壁を通り抜けた今、自分ほど助けられている者は居ない、と感謝が湧いてくるようになります。

ご承知のように6代会長任命のお運びは6月26日。任命奉告祭は9月4日です。

真柱様、奥様、大亮様、布恵奥様にはご臨席をお願いいたしますが、今の状況では確定するのはまだ先になると思われま。実行委員会では奉告祭当日に向け様々な準備を進めて下さっています。晴れやかな日がよみがえり、その日には皆さまと笑顔でお目にかかれるよう心から願って居ます。

(4月10日記)

三月月次祭の様

3月の上旬には今冬一番の大雪が道内を襲い、連日の雪かきに音を上げた方も多かった事と思う。しかし、一転して中旬に入ると気温が急激に上がり、各地で雪解けが急速に進んで、春の近付きをにわかに感じさせる日が続いた。

迎えた月次祭当日も気温はグングンと上昇し、ポカポカと暖かい春の空気の中、祭典が執り行われた。9時半より開扉献饌。祭文奏上のち座りづとめ・十二下りのてをどりが務められた。

祭典後には直ちに準備がなされ、引き続き大教会長祭主の下、春季霊祭が執り行われた。

この度、竹田笑子・馬追三代会長夫人、大橋美枝子・由仁四代会長夫人、大西雅彦・津別三代会長夫人、真鍋富貴子・梅淀三代会長、齊藤恵子・東苗穂四代会長夫人の五名が合祀され、遺族・関係者が揃って霊様の前に進み参拝した。その後、各教会・各会を代表して藤田大和役員が参拝した。

講話には、高橋太志役員が壇上に上がり「普段の生活とは違う毎日を、お互いに過ごしているところでありませぬ。会いたい人にもなかなか会えず、またお

祝い事があっても、一同に集まるといふことも難しい現在であります。喜びをお互い分かち合いたいと思ってもできない、そんな毎日ではないでしょうか。しかしながら、それで私たちが離れ離れになるわけではない、と思えますので、どうか心は離れず、いろいろな方法があるの、心はお互い繋がりがあつていきたい、と感じております。

現在おぢばでは、感染予防をしながら修養科、教員資格講習会また三日講習会も開催されております。ひきよせには初席を運んだ高校生も記載をされております。おぢばでもそのようなことをしますので、どうかおぢばにも心寄せを頂きたいと思っております。

新型コロナウイルスに、私の教会の信者さんも2名感染をいたしました。昨年の4月、千歳市はいくつかのクラスターが起り、その時に一人感染をいたしました。身近なところでも起こりう



る事を実感しております。また、一人は若い方が感染をしまして、入院してから急変をしまして、かなり厳しい状態になりました。教会としては、おたすけにも行けませんし、御供さんをお渡ししても届くこともない、という状態でした。できることといえば、お願いづとめをさせて頂くこと、また今日も元気で過ごさせて頂いた喜びをもって、お礼のおつとめをさせて頂いていただくことで、そのような毎日を過ごしてまいりました。その彼もお陰様で無事に退院をして、職場に復帰しております。

祝梅分教会ではプリントを作り『信者の皆様へ』ということ、教会に来られる時は、こういうことを注意し、また教会から信者宅に行く時には、このような注意をしていきます、という案内をさせて頂いております。感染予防に気をつけながら、教会に参拝をしていただいたり、月次祭を勤めているところでありませぬ。

おさしづに『…神の守護ありやこそ、まあ今日も目出度い、皆鮮やかと言う。』(明治34年8月17日)とあります。私たちは親神様の多くのご守護を頂いて、暮らしています。ご守護いただいていることに目い

ばい感謝をして、ありがたいなあ結構だなと思いい日を終える、ということがどれだけ素晴らしいか、私たちが味わっていきいたいと思ひます。おふでさきに『これからハ心しいかりいれかへて よふきづくめの心なるよふ』(十四号24)とあります。ありがたいなあ結構だなあ、という中で何か心を入れ替えさせて頂いた。陽気ぐらしに向かつて、何か変わっていくこと、変えていかなくてはならないことがあれば、正直に心で受け止めて、心を入れ替える努力をできれば、必ずまた心を繋げていくことができるのではないかと信じております。

夕張大教会では9月4日、6代会長の就任奉告祭が勤められます。その日は来賓をお呼びして、新しい会長と共におつとめをさせて頂いた日であります。おつとめ奉仕者の皆様方は、これから役割が発表されますので、その日にしっかりと心を入れ、また練習をさせて頂いただけばと思ひます。またご参拝の皆さま方には、その日におつとめのお歌に合わせて、共に勇んでお歌を唱和していただければ、というふうな思っております」と

話した。大教会長はあいさつに先立ち、

先日出直された矢野良一・北夕七代会長と梶川ユキ・峰延二代会長夫人の御霊に黙祷を捧げた。その後あいさつにて「奉告祭への準備を、少しずつでも進めていって欲しいと思います。現状、コロナ禍で集まって相談したり、準備をしたりという事は困難ではありますが、進め方を工夫して取り組んでいってもらいたいです。」

現在、奥さんが教会長任命講習を受講しております。今月末にはお運びがあつて、札幌の会長が交代する事になりますが、これも奉告祭までの大きな動きの一つ、一歩ですね。また布教所の名称の整理も進めております。これから忙しくなっていくと思いますが、一つ一つ取り組んでいかないといけませんね。秋に向けて、皆さんにお願いする事も増えてくると思いますが、どうかまたお力添えを頂きたいと思ひます」と話された。



教理を学び、心が軽く

気づき 感動 感謝

2〜3月で教人資格講習を受講しました3名の方の感想をお届けします。

2月受講 梶川 雅代(新生)

私は今まで、自分の心の声に気づけず人目ばかり気にしながら生きてきました。人とお話しするときは、常に緊張していたように思えます。

そんな私でもひとり一人にじっくり寄り添って人助けがしたいという思いから、看護師になりました。ですが思い通りにはいかず、ちよつとした失敗でも自分を責め続け、責めることに疲れたら周囲のせいにしていました。21歳のときの修養科を出たての明るい自分はどこへ行ったのか。後悔し先案じする日々が続いていました。そんな自分が大嫌いで、一旦世間から離れておちばでもう一度教理を学びたいと思ひました。

昨年12月に仕事を退職し、母の勧めから2月の教人資格検定講習会を受講することを決意しました。教理を学んでいくうちに、今まで自分が責めていたものは自身のいんねんであるのだと振り返ることができました。

何十年、何百年と重ねてきた因縁であるため、もう自分を責める必要はないのだと思うと、肩の荷が下りたかのように心と体が楽になりました。まずは自分が救ってほしいと思ひ、救いを求め、救からないことには人助けができないと分かり、自分の心の声に耳を傾けるようになりました。

そうすることで、今までの当たり前が全てでありがたく感じ、周囲の人の気遣いも素直に受け止めることができるようになりました。そして、自分も自然と心から人に気遣えるようになりました。今までの自分の気づき、気遣いは自分の力だと思ひていましたが、全て親神様のお働き、思召しだったのだと気づきました。その気づきへの感動、感謝は今でも鮮明に覚えていて、忘れられません。

私は今、新しい職場で伏せ込みをしています。お与えいただいた物や場所、人との出会いへの感謝を忘れずに、たんのうの旗印を掲げて喜びを探し続けていきたいです。本当の幸福の意味を教人資格講習会で気づかせていただくことができました。ありがとうございます。これからは教祖を見失わず、教祖のひながたを辿って生きていきます。

3月受講 高橋 都志子(祝梅)

初日は組係のお役をいただいていたこともあり、私にとまのか…という不安な気持ちで毎日手探りでした。信仰面でも当初自分の中でモヤモヤしている部分がありましたが、目を重ねる度にそのモヤモヤが晴れていく感覚があり、おちばの凄さを体感しました。

授業中も先生方のお話心揺さぶられ、ずつと涙を流しながら聞いていました。今の自分に必要な話ばかりで心から感動しました。

そして勉強していく中で親神様、教祖の親心を今までより深く感じるようになっていきました。講習中にも身上者やトラブル、自分自身の身上など様々なお見せいただきましたが、その全てが親神様、教祖の親心からであると考え、とて、全てが有難いと心から思え、前向きに向き合うことができました。その結果、親神様にもたれることができ、また物事がおさまる姿をたくさん見せていただきました。

修養科とはまた違い、自分が求めていたより深いお道の勉強をすることが出来たので本当に嬉しく思ひます。

まだまだ未熟ではありますが、今後は教人として教会の支えと

なり、もっと成人できるようとめていきたいです。

3月受講 梶川 郁美(新生)

天理教は私にとって身近なもので、生活の一部だと思ひていました。しかし、コロナ禍や仕事の忙しさから、日々の喜びが減っている状況でした。

講習で教理を学んで、お助け話を聞いてみると、点と点が結ばれるように、これまで耳にしていたお話がすんなり心に入っていくような気がしました。自分が思っている以上に、もっともっと身近な出来事、自分が生まれ育った環境までも親心がいっぱい込められてると気がつきました。心が熱くなつて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

両親が教諭してくれた信仰。自分にとって信仰とは何か、自分と親神様、教祖。そう考えた時、素直に理解したい、知りたい、と思ひ、親心を感じながらおつとめをするようになりました。教理に触れ、心の目線を落としていくと、緊張がほぐれるように肩が軽くなつていくのが分かりました。

たくさん気づきが多かつた15日間。これからは感謝の気持ちを行動に移して、親心を感じていきたいです。

**美重子奥様
任命お運び
札美分教会長就任**

3月26日、御本部月次祭の賑わい残る教祖殿にて札美分教会四代会長に、藤田美重子・大教会長夫人が任命のお許しを戴いた。

奥様の足は、昨秋の手術より充分回復出来ていない為、車椅子、杖をついての動きであり、大教会長、前会長の藤田大和さんと共に、紋付・羽織を着けた大教会役員2名の付き添いの他に、布教部から2名が随行してのお運びとなった。またお運びの係の先生方も、真柱様の御前で正座が出来ない奥様の様子と動作を十分に気を配って下さり、無事お許しを戴く事が出来た。

その後、詰所では大教会霊様へのお礼の参拝の後、それぞれに分かれて、お弁当で新会長さんを祝う直会をつとめた。奉告祭は5月22日の予定。



**1年4か月ぶりに開催
子ども食堂**

大教会の藤田美重子奥さんが代表となり、4年前より活動している子ども食堂「すまいる」が、一昨年11月以来、約1年4か月ぶりに開催されました。

当日3月21日は、寒く雨も降りだす天気でしたが、その中でも子ども同士、親子連れ、家族連れ合わせて48名(子どもも33名)の方がこの日を楽しみに集まり、ご婦人さん達の心のこもったカレーライスを堪能しました。手指の消毒、マスク着用を徹底し、食べる方向は一方向、テーブルも離し、いつも用意しているゲームコーナーも中止という中でしたが、お手伝いに集

まった奥さんのご友人達の喜んだ声、カレーを食べた子ども達の嬉しそうな表情、とても良い雰囲気の開催となりました。初めての子もいましたが、さすが1年以上ぶりであつて、毎度来てくれている子ども達は背も伸び、成長していたのが印象的でした。



祝梅若人会総会開催

3月21日 日曜日、祝梅分教会において、若人会に携わる会員10名、総勢40名がつどい、若人会総会をつとめました。

昨年は感染症拡大により総会を実施することが出来ませんでした。今年はどうしたら実施出来るかをスタッフや会長さんと相談し、内容の短縮等を検討し、座りづとめ、よろづよ八首、会長さんからの挨拶、委員長の挨拶、記念撮影のみとし短時間で実施することが出来ました。

今年も若人会総会を実施出来ることに対して大変嬉しく思っています。これもひとえに、ご支援とお力添えの賜物です。この場を借りて感謝申し上げます。今年も出来ることを精一杯務めさせていたきたいと思えます。祝梅若人会委員長 伊藤伸幸



庶務部 3月

- ▽教会長任命講習修了
- 藤田美重子(直轄) 3・10〜14
- ▽お運び(教会長任命)
- 藤田美重子(札美) 3・26
- ▽詰所ひのきしん
- 阿部 恭子(直轄) 3・22

大教会日誌抄 3月

- 1日 たすけ推進会議
- 青年会・屋根雪下ろし
- 3日 峰延分教会2代会長夫人、梶川ユキ様お出直し
- 6日 会長、幌部分巡教会長夫妻、梶川ユキ様葬儀へ〜7日(会長齋主)
- 8日 会長夫人、おちばへ
- 10日 会長夫人、教会長任命講習会受講〜14日
- 12日 会長、馬追分巡教会長、月次祭準備
- 14日 月次祭 春季霊祭
- 15日 会長夫人、帰会
- 18日 会長、栗山分巡教会長、おちばへ
- 21日 子ども食堂
- 23日 会長夫妻、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 本部月次祭 遥拝式
- 27日 本部春季霊祭
- 30日 会長、かなめ会 会長夫妻、帰会